# 彙　報

会　長　田　窪　行　則

## ――常任委員会――

**2020 年度第 2 回常任委員会**

日　時：2020 年 11 月 1 日（土）13:00 ～ 17:00
場　所：オンライン会議
出席者：田窪行則（会長）小野尚之，江口　正，久保智之，桐生和幸，千田俊太郎，中谷健太郎，野田尚史，福井直樹，米田信子，渡辺　己（以上，常任委員），有田節子（事務局長）
オブザーバー：井上　優（編集委員長），定延利之（編集副委員長），伊藤さとみ（大会運営委員長），小泉政利（広報委員長），金城由美子，早田清冷（以上事務局委員）
（欠席：菊澤律子　常任委員）

［報告事項］

（1）今期の組織・役員について
・今期の組織・役員が資料によって確認された。

（2）今後の大会開催予定について
・以下の予定が報告された。
第 161 回大会（2020 年秋季大会）：2020 年 11 月 21 ～ 21 日，オンライン開催（大会実行委員長：豊島孝之氏）
第 162 回大会（2021 年春季大会）：2021 年 6 月 26 日～ 27 日，早稲田大学（大会実行委員長：酒井弘氏）
第 163 回大会（2021 年秋季大会）：（日程未定），沖縄国際大学（大会実行委員長：西岡敏氏）

（3）各種委員会からの報告
・本彙報の各委員会の項目を参照。

（4）言語系学会連合からの報告
・7 月 5 日（日）に運営委員会，10 月 11 日（土）に意見交換会が行われたこと，2021 年（2 月または 3 月）に公開特別シンポジウムを開催予定であることが報告された。

（5）事務局からの報告
1．日本学術会議新規会員任命拒否に関わる声明について
10 月 9 日評議員会（メール審議）において日本学術会議の「第 25 期新規会員任命に関する要望書」を支持することを決議し，10 月 12 日学会ホームページに声明を掲載した。
2．会費免除について
2019 年九州北部豪雨，台風 15 号，19 号で被災された会員に対する会費免除を今年度も継続する。新型コロナウィルス感染症（COVID-19）による影響で，修学の継続が困難になっている学生会員に対して 2020 年度の会費を免除する。
3．会費滞納者への督促について
例年通り実施する。
4．2021 年度「言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト助成」募集について
例年通り実施する。

［審議事項］

（1）161 回大会の運営方法について
・オンライン（Zoom）による開催とし，参加者はオンラインで事前登録を行うものとする。大会終了後一定期間，発表は登録者のみ，講演は一般への録画公開を行う。

（2）編集委員会の運営体制の改善策について
・編集作業の可視化のため，査読要領の一部を公開すること，慫慂論文はその旨を明記することを検討し，承認した。また，投稿規定にフローチャートを付すことを評議員会で提案することを決定した。

（3）倫理委員会に関する規程等の整備について
・倫理委員会内規の改定，倫理調査委員会規程の制定，倫理委員会の実施ガイドラインについて検討を行い，承認した。

（4）選挙制度の変更に伴う規程の改正について
・評議員の地区別選出を停止するにあたり，会則の変更について検討を行い，選

挙管理員の選出方法について二案（個人会員中より評議員が選出する，評議員の互選により選出する）を評議員会で提案することを決定した。

(5) シニア会員制度導入について

・10 年以上継続して会員である 65 歳以上の個人会員に対し，会費を減額した「シニア会員」という枠を設ける案を検討し，評議員会で提案することを決定した。

(6) 日本学術会議に関する人文・社会科学系学協会「共同声明」への参加・賛同について

・常任委員会，評議員会のメール審議を経て，「日本学術会議第 25 期推薦会員任命拒否に関する人文・社会科学系学協会共同声明」（2020 年 11 月 6 日）に学会として参加・賛同した。

(7)「言語学オリンピック」への学会としての関わり方について

・今年度の言語学オリンピックの開催が見送られ，学会としての支援方法については継続審議とする。

## ――評議員会――

**2020 年度第 2 回評議員会**

日　時：2020 年 11 月 21 日（土）18:00 ～ 20:00

場　所：オンライン会議

出席者：田窪行則（会長），奥　聡，時崎久夫，野村益寛，小野尚之，小泉政利，那須川訓也，庵　功雄，伊藤たかね，大津由紀雄，生越直樹，風間伸次郎，河内一博，菊地康人，窪薗晴夫，小林正人，田中伸一，長屋尚典，西村義樹，野田尚史，長谷川信子，早津恵美子，福井直樹，松本　曜，江畑冬生，呉人　恵，斎藤衛，佐久間淳一，杉崎鉱司，玉岡賀津雄，新田哲夫，有田節子，梶　茂樹，金水敏，佐々木冠，定延利之，沈　力，千田俊太郎，林　範彦，藤代　節，益岡隆志，宮本陽一，由本陽子，吉田和彦，米田信子，桐生和幸，塚本秀樹，辻　星児，宮崎和人，江口　正，久保智之，下地理則（以上，評議員 51 名）

委任状：13 名

オブザーバー：上野善道（顧問），上山あゆみ（会計監査委員），伊藤さとみ（大会運営委員長），金城由美子，早田清冷（以上，事務局委員）

［報告事項］

(1) 今期の組織・役員について

・今期の組織・役員が資料によって確認された。

(2) 今後の大会開催予定について

・以下の予定が報告された。

第 162 回大会（2021 年春季大会）：6 月 26 日～ 27 日，早稲田大学（大会実行委員長：酒井弘氏）

第 163 回大会（2021 年秋季大会）：（日程未定），沖縄国際大学（大会実行委員長：西岡敏氏）

(3) 各種委員会からの報告

・本彙報の各委員会の項目を参照。

(4) 言語系学会連合からの報告

・7 月 5 日（日）に運営委員会，10 月 11 日（土）に意見交換会が行われたこと，2021 年（2 月または 3 月）に公開特別シンポジウムを開催予定であることが報告された。

(5) 事務局からの報告

1. 日本学術会議新規会員任命拒否問題に関わる対応について
「日本学術会議第 25 期推薦会員任命拒否に関する人文・社会科学系学協会共同声明」（2020 年 11 月 6 日）に学会として参加・賛同した。
2. 九州北部豪雨，台風 15 号，19 号で被災された会員に対する会費免除について
今年度も継続する。新型コロナウィルス感染症（COVID-19）による影響で，修学の継続が困難になっている学生会員に対して 2020 年度の会費を免除する。
3. 2021 年度「言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクト助成」募集について
例年通り実施する。

［審議事項］

（1）編集委員会の運営体制の改善策（「言語研究」編集作業の見直し）について

・編集委員会の運営体制の改善策として投稿規定にフローチャート（日・英）を付すことが承認された。

（2）選挙制度の変更に伴う規程の改正ついて

**【別記】**

・評議員の地区別選出を停止するにあたり，選挙管理員の選出方法について，評議員の互選によるものとし，会則改定を行うことが承認された。

（3）倫理委員会に関する規程等の整備について

・倫理委員会内規の改定，倫理調査委員会規程の制定，倫理委員会の実施ガイドライン制定について審議され，承認された。

（4）シニア会員制度の導入について

・10 年以上継続して会員である 65 歳以上の個人会員に対しシニア会員会費の導入が承認された。選挙権等，シニア会員に付与する資格については，継続審議とする。

## ――編集委員会――

・『言語研究』執筆要項の一部を改訂した。（2020 年 9 月）

・和文論文・英文論文のテンプレートを改訂し，学会ホームページ上で公開した。（2020 年 9 月）

・投稿・査読の大まかな流れを示した図を学会ホームページ上で公開した。（2020 年 11 月）

・査読要領の一部を学会ホームページ上で公開した。（2020 年 11 月）

## ――大会運営委員会――

**2020 年度第 2 回大会運営委員会**

日　時：2020 年 9 月 11 日（日）10:00 ～ 12:00

場　所：Zoom

出席者：伊藤さとみ（大会運営委員長），小磯花絵，成田広樹，宮地朝子，下地理則，江畑冬生，星　英仁，金　廷珉，大島デイヴィッド義和，柴﨑礼士郎，品川大輔（大会運営委員）

［報告事項］

（1）第 160 回大会（オンライン）の終了報告が大会運営委員長よりなされた。

（2）第 161 回大会（Zoom）に関する準備状況が大会運営委員長より報告された。

［審議事項］

（1）第 161 回大会における研究発表の採否について審議した。応募用紙の審査結果に基づき，口頭発表 50 件（応募 69 件），ワークショップ 2 件（応募 2 件），ポスター発表 4 件（応募 8 件）を採択することとした。

（2）プログラムの編成を行った。口頭発表は 6 会場 6 本（移動 10 分），午前中に 3 発表，午後に 6 発表とし，Zoom ミーティングで開催することを決定した。さらに，各発表を振り分け，会場担当の委員ならびに司会者候補を決定した。

（3）シンポジウムは公開講演とし，公開講演会後に会長挨拶と授賞式を Zoom ウェビナーで行い，午後に Zoom ミーティングでワークショップを行うことを決定した。

## ――広報委員会――

1．学会ウェブサイトの「学会からのお知らせ」（大会情報，論文賞，発表賞など）と「学会関連情報」（公募情報，研究会情報など）を随時更新した。

2．学会ウェブサイト左側のナビゲーションの「学会の諸活動」の欄に「国際情報発信強化」（英語版は Fostering Joint International Research）という名前の新しいカテゴリーを設けた。

3．学会ウェブサイトの「トップ > 日本言語学会について > 組織・役員など」に「国際情報発信強化小委員会」を追加した。

4．学会ウェブサイトの『言語研究』用の執筆要項とテンプレートを更新した。

5．これまでは他学会などからの当学会ウェブサイトへの情報掲載依頼をメールで受け付けていたが，学会ウェブサイトの掲載依頼受付フォームを使用する方式に変更した。
6. Twitter と Facebook で学会からのお知らせを随時発信した。
7. 日本言語学会の YouTube チャンネルを開設し動画公開を開始した。

## ――学会賞選考委員会――

**2020 年度第 1 回学会賞選考委員会**

第 160 回大会（2020 年 7 月 1 日 –7 日，大会特別 YouTube チャンネル）の発表賞について，2020 年 8 月 5 日から 8 月 23 日にメール審議（これに先立つ大会発表賞選考部会の審議は，2020 年 7 月 25 日に Zoom 会議で審議）。

［審議事項］

（1）第 160 回大会発表賞について
中谷大会発表賞選考部会長より原案が提示され，審議の結果，3 名の授賞者を決定した（審査対象 10 件）。

**2020 年度第 2 回学会賞選考委員会**

2020 年度論文賞について，2020 年 10 月 26 日から 10 月 28 日にメール審議（これに先立つ論文賞選考部会の審議は，2020 年 8 月 23 日から 10 月 25 日にメール審議）。

［審議事項］

（1）2020 年度論文賞について
庵　論文賞選考部会長より原案が提示され，審議の結果，2 名の授賞者を決定した（審査対象は『言語研究』（154 号, 155 号, 156 号, 157 号）掲載論文のうち 5 編）。

**2020 年度第 3 回学会賞選考委員会**

第 161 回大会（2020 年 11 月 21 日にリアルタイム配信。11 月 24 日から 12 月 1 日まで発表および質疑応答の録画ビデオが会員に公開された）の発表賞について，2021 年 1 月 9 日から 1 月 11 日にメール審議（これに先立つ大会発表賞選考部会の審議は，2020 年 12 月 19 日に Zoom 会議で審議）。

［審議事項］

（1）第 161 回大会発表賞について
中谷大会発表賞選考部会長より原案が提示され，審議の結果，2 名の授賞者を決定した（審査対象 8 件）。

**謝　辞**

第 160 回大会および第 161 回大会発表賞，2020 年度論文賞の選考にあたり，多くの会員に審査員として御協力いただきました。以下に，御承諾をいただいた方々のお名前を掲載いたします（敬称略，五十音順）。

［大会発表賞］

| | | |
|---|---|---|
| 五十嵐陽介 | 入江浩司 | 内海敦子 |
| 岡部玲子 | 奥　聡 | 春日　淳 |
| 狩俣繁久 | 北野浩章 | 木部暢子 |
| 金　善美 | 金　廷珉 | 金水　敏 |
| 窪田悠介 | 小磯花絵 | 児玉　望 |
| 小林正人 | 酒井　弘 | 佐々木冠 |
| 志波彩子 | 柴崎礼士郎 | 白井聡子 |
| 沈　力 | 杉崎鉱司 | 田中真一 |
| 田中伸一 | 千田俊太郎 | 内藤真帆 |
| 中野陽子 | 中村　渉 | 長屋尚典 |
| 西岡　敏 | 新田哲夫 | 早津恵美子 |
| 原田なをみ | 広瀬友紀 | 藤井友比呂 |
| 堀　博文 | 松浦年男 | 山腰京子 |

［論文賞］

| | | |
|---|---|---|
| 庵　功雄 | 五十嵐陽介 | 石井　透 |
| 岸本秀樹 | 定延利之 | 時崎久夫 |
| 福井直樹 | | |

以上

## ――倫理委員会――

（1）第 158 号の彙報で報告した相談案件（『言語研究』の編集過程に関する件）について，倫理委員会の内規に基づき，調査委員会が立ち上げられた（メンバーは非公開）。調査委員会は 2020 年 8 月 8 日から活動を開始し，9 月 11 日に倫理委員会委員長宛に「倫理調査委員会調査報告書」を提出した。

(2) 倫理委員会はこの調査報告書に基づき，相談者からの言語学会の対応の要求に対する回答の案を審議した。審議は9月15日から10月6日までのメールによる意見交換および9月25日のzoom開催による会議で行われた。審議の結果を受け，10月6日に，「相談者への学会としての回答書【案】」を倫理委員会から会長宛に提出した。

(3) かねて懸案となっていた内規の改定の検討に加え，上記の相談案件対応の中で明らかになってきた課題の解決を目指して，「倫理委員会内規」の改定案，「倫理調査委員会規程」の案，「倫理委員会の実施ガイドライン」の案（以上については，2020年度第2回評議員会参照），および「倫理委員会から会長への提言」を作成し，10月6日に会長に提出した。これらの審議は（2）のメール・会議による審議と並行して行われた。

(4) 倫理委員会の委員の任期は1年間であり毎年度4月と10月に半数改選となる。2020年10月に新委員として呉人恵，藤代節，松本曜，矢野雅貴の4名が加わった。（ただし，上記（2）の対応が10月まで継続したため，10月6日までの審議は旧委員で行った。）10月20日にzoomで新旧引継のための委員会を開催した。新副委員長として伊藤たかねが会長により指名され，早津恵美子前副委員長から業務を引き継いだ。

(5) (3) で提出した「会長への提言」に対し，2021年1月10日に会長からの回答が副委員長宛に送付された。これを受けて，審議を開始すべく，1月20日にzoomで会議を開催する予定である。おもに，「懲罰委員会」にあたる委員会の構成や懲罰の規程の案の検討，およびヒトを対象とした実験研究・調査研究に関わる倫理指針にかんして倫理綱領に加える可能性についての検討を行う。

## ――国際発信強化小委員会――

(1) 『言語研究』に掲載された歴代会長就任記念論文と学会論文賞を受賞した和文論文の中から毎年5本ずつ英訳し，オンラインで公開することを決定した。今年度は，会長就任記念論文5本（田窪行則氏，梶茂樹氏，影山太郎氏，上野善道氏，庄垣内正弘氏）を対象とし，現在，英訳・校閲作業を進めている。

(2) 2020年12月12日（土）に英語要旨執筆ワークショップをzoom開催。参加者は97名。ワークショップ内で行われた講演「日本語話者が英語で論文を書くということ」をYouTubeチャンネルで公開した。

**【別記】「日本言語学会選挙規則」の変更**

《旧》

1. 会長，編集委員長，会計監査委員，評議員は，所定の手続きによって，個人会員の互選により選出する。選挙権・被選挙権は当年度の会費をその年度の10月末日までに完納した個人会員が有する。選出は，選挙のある年度の10月末日現在の選挙権および被選挙権を有する者の名簿（選挙人名簿）による。
2. 会長，編集委員長および会計監査委員の選出は，最多得票数による。同数の場合は抽選による。
3. 会長，編集委員長および会計監査委員の選出は，最多得票数による。同数の場合は抽選による。
4. 評議員は，次の7地区別に，各地区の定数によって選出する。各会員は在住地によって各地区に分属するものとする。
   1）北海道　2）東北　3）関東　4）中部　5）近畿　6）中国・四国　7）九州・沖縄
5. 各地区の評議員の定数は，前記選挙規則第1の選挙人名簿による当該地区在住の個人会員数の按分比例によって定める（注）。ただし，総定数は約70名とする。
6. 投票は10名以内の連記による無記名投票とする。会員は，自分の属する地区以外に在住する会員にも評議員候補者として投票することができる。
7. 評議員選出は，得票数の多いものから順次，地区別定数に達するものまでとし，当落の境界に同数得票者が生じた場合は抽選による。
8. 評議員の欠員は補充しない。
9. 会長，編集委員長，会計監査委員が任期の途中で交替した場合は，前任者も後任者も，在任期間が1年以上であれば，次期の被選挙権を有しない。

《新》

1. 会長，編集委員長，会計監査委員，評議員は，所定の手続きによって，個人会員の互選により選出する。選挙権・被選挙権は当年度の会費をその年度の10月末日までに完納した個人会員が有する。選出は，選挙のある年度の10月末日現在の選挙権および被選挙権を有する者の名簿（選挙人名簿）による。
2. 会長，編集委員長および会計監査委員の選出は，最多得票数による。同数の場合は抽選による。
3. 会長，編集委員長および会計監査委員の選出は，最多得票数による。同数の場合は抽選による。
4. 評議員の総定数は，70名とする。
5. 投票は10名以内の連記による無記名投票とする。
6. 評議員選出は，得票数の多いものから順次，定数に達するものまでとし，当落の境界に同数得票者が生じた場合は抽選による。
7. 評議員の欠員は補充しない。
8. 会長，編集委員長，会計監査委員が任期の途中で交替した場合は，前任者も後任者も，在任期間が1年以上であれば，次期の被選挙権を有しない。

10. 選挙管理委員会は，会長と 4 名の選挙管理委員を以て構成する。選挙管理委員長は，会長を以てこれに当てる。
11. 選挙管理委員は，選出された会長の在住地区の個人会員中より評議員が選出する。ただし，各機関内（大学付置の研究所等はその大学に含まれる）より選出される選挙管理委員の数は 1 名を限度とする。任期は 3 年とし，連続 3 選は許さない。
12. 選挙管理委員の選挙は，2 名連記の無記名投票とする。
13. 選挙管理委員の当落の境界に同数得票者が生じた場合は，抽選による。
14. 選挙管理委員に欠員が生じた場合は，次点者を以てこれを補う。補欠の選挙管理委員の任期は残任期間とする。

注記

○第 5 について

計算方法は次の式により，端数は四捨五入する。

各地区の評議員定数＝ 70 名×（当該地区の選挙権者総数／国内在住の選挙権者総数）

○第 10，12 について

2018 年 4 月より実施する。

（1984 年 10 月 13 日修正案可決。）
（2004 年 6 月 19 日修正案可決。）
（2008 年 6 月 21 日修正案可決。）
（2009 年 6 月 20 日修正案可決。）
（2017 年 6 月 24 日修正案可決。）

9. 選挙管理委員会は，会長と 4 名の選挙管理委員を以て構成する。選挙管理委員長は，会長を以てこれに当てる。
10. 選挙管理委員は，評議員の互選により選出する。ただし，各機関内（大学付置の研究所等はその大学に含まれる）より選出される選挙管理委員の数は 1 名を限度とする。任期は 3 年とし，連続 3 選は許さない。
11. 選挙管理委員の選挙は，2 名連記の無記名投票とする。
12. 選挙管理委員の当落の境界に同数得票者が生じた場合は，抽選による。
13. 選挙管理委員に欠員が生じた場合は，次点者を以てこれを補う。補欠の選挙管理委員の任期は残任期間とする。

（1984 年 10 月 13 日修正案可決。）
（2004 年 6 月 19 日修正案可決。）
（2008 年 6 月 21 日修正案可決。）
（2009 年 6 月 20 日修正案可決。）
（2017 年 6 月 24 日修正案可決。）
（2020 年 11 月 21 日修正案可決。）

**第 161 回大会**

期日　2020 年 11 月 21 日（土）・22 日（日）

会場　Zoom

公開講演　11 月 22 日（日）10:00 ～ 12:00

"Minimalism: where we are now, and where we are going."　Invited Speaker: Noam Chomsky

Moderator: Masayuki Oishi

Discussants: Sandiway Fong

Hisatsugu Kitahara

Takashi Toyoshima

口頭発表

―第 1 日（11 月 21 日（土））10:00 ～ 17:50―

◦A 会場

| | | | |
|---|---|---|---|
| (A-1) | 10:00 ～ | コプト語他動詞の形態変化と名詞抱合 | 宮川　創 |
| (A-2) | 10:40 ～ | Raising to quirky subject in Tatar | Chihiro Taguchi |
| (A-3) | 11:20 ～ | チュヴァシ語の位格・奪格における /r/ と /t/ の交替について | 菱山　湧人 |
| (A-4) | 13:50 ～ | シンハラ語における数標示の形態論的有標性と頻度 | 吉田　樹生 |
| (A-5) | 14:30 ～ | オリヤ語のコピュラ節に見られる，名詞句階層に関する制約 | 山部　順治 |
| (A-6) | 15:10 ～ | ナガミーズ語の所有表現 | 村上　武則 |
| (A-7) | 16:00 ～ | アラビア語チュニス方言の VS 構文による語りの構造化 | 熊切　拓 |
| (A-8) | 16:40 ～ | 日常会話の語りにおける聞き手行為の産出プロセス | 張　氷穎 |
| (A-9) | 17:20 ～ | 後置文の機能的分析 | 今村　怜 |

◦B 会場

| | | | |
|---|---|---|---|
| (B-1) | 10:00 ～ | 北琉球奄美大島方言の助詞 ba の二つの機能―対格標示と取り立て― | 重野　裕美<br>白田　理人 |
| (B-2) | 10:40 ～ | 自然談話において焦点呼応はいつ現れるか？―琉球沖永良部国頭方言の場合― | 横山　晶子 |
| (B-3) | 11:20 ～ | 南琉球諸語における漢語の借用時期と音変化の相対年代 | 中澤　光平<br>ｾﾘｯｸ　ｹﾅﾝ<br>麻生　玲子 |
| (B-4) | 13:50 ～ | 中国語使役マーカー「譲」の相互性について | 呉　蘭 |
| (B-5) | 14:30 ～ | インドネシア語の使役動詞における構造的選好性 | 佐近　優太 |
| (B-6) | 15:10 ～ | 使役接辞 -(s)ase の意味機能 | 前田宏太郎 |
| (B-7) | 16:00 ～ | 動作性名詞述語文の日韓対照研究 | 金　智賢 |
| (B-8) | 16:40 ～ | 外来語動詞的用法の文法的特徴に関する日韓対照研究―スル・ハダ動詞と機能動詞表現を中心に― | 林　廷修 |
| (B-9) | 17:20 ～ | 西夏文字における「点」の出現環境と機能 | 荒川慎太郎 |

◦C 会場

| | | | |
|---|---|---|---|
| (C-1) | 10:00 ～ | 日本語を母語とする英語学習者による第二言語英語文処理における CV/C 分節選好の転移 | 松原　理佐 |
| (C-2) | 10:40 ～ | Affix allomorphy determined by uniformity of paradigmatic prosodic patterns | Hiroki Koga |

| | | | |
|---|---|---|---|
| (C-3) | 11:20 ～ | 近畿方言におけるアクセント式の知識と予測処理：茶色「の」きつねと茶色「の」きりん | 広瀬　友紀<br>伊藤　愛音 |
| (C-4) | 13:50 ～ | モンゴル語アラシャ方言の阻害音に見られる脱オイラト語化と中間性 | 外賀　葵 |
| (C-5) | 14:30 ～ | ケラビット語バリオ方言のいわゆる「有声帯気音」に関する考察 | 深谷　康佳 |
| (C-6) | 15:10 ～ | 有気音と緊喉母音の相互排他性 | 倉部　慶太 |
| (C-7) | 16:00 ～ | 母音間における撥音の知覚判断―子音の閉鎖の度合いについて― | 韓　喜善<br>難波　康治 |
| (C-8) | 16:40 ～ | 鹿児島県大隅半島内之浦方言における 2 種類の閉音節 | 髙城　隆一 |
| (C-9) | 17:20 ～ | ベトナム語ハノイ方言の二重母音の音韻表記について：音響的観点からの検討 | 山岡　翔 |

◦D 会場

| | | | |
|---|---|---|---|
| (D-1) | 10:00 ～ | 小節の特異性に関して：節らしさと選択関係 | 森竹　希望 |
| (D-2) | 10:40 ～ | 主要部内在型関係節の長距離選択分析，関連性条件の統語的誘因：黒田分析再考 | 林　愼将 |
| (D-3) | 11:20 ～ | The choice between correlative and non-correlative relative clauses in Sanskrit | Zhang Qianqian |
| (D-4) | 13:50 ～ | A contrastive analysis of concessive conditional clauses in Marathi and Japanese | Chida Satomi |
| (D-5) | 14:30 ～ | Distributivity and collectivity in the world domain: Evidence from Japanese modality | Muyi Yang |
| (D-6) | 15:10 ～ | Grammaticalisation of motion verbs in Japanese: *Iku* and *kuru* revisited | Artemii Kuznetsov |
| (D-7) | 16:00 ～ | Particle stranding ellipsis in Japanese involves LF-copying, not PF-deletion | Hideaki Yamashita |
| (D-8) | 16:40 ～ | 日本語における 2 種類の Comparative Deletion | 原田　祐介 |
| (D-9) | 17:20 ～ | 日本語における助数詞を含む解釈が義務付けられた省略 | 松本　大貴 |

◦E 会場

| | | | |
|---|---|---|---|
| (E-1) | 10:00 ～ | 反復表現「A ことは A」に関する一考察 | 山本　尚子 |
| (E-2) | 10:40 ～ | 文末の「ト思ウ」と英語の一人称・二人称代名詞の語用論的機能の同等性 | 金沢じゅん |
| (E-3) | 11:20 ～ | 会話で用いられる「ある意味」について | 加藤　恵梨 |
| (E-4) | 13:50 ～ | 「～のお持ち｛の／でない｝方」という表現について―「お＋動詞連用形」の捉え方をめぐって― | 森　貞 |
| (E-5) | 14:30 ～ | 「清水購入した」という表現―使用基盤モデルから見た意味の伝染と語形成― | 氏家　啓吾 |
| (E-6) | 15:10 ～ | 日本語における新しい認知類型論的試み―話し手の言語化形式をめぐって― | トン　イ<br>盧　濤 |
| (E-7) | 16:00 ～ | 述語名詞「- すぎだ」の内項主語構造における他動詞と非対格自動詞の比較 | 新山　聖也 |
| (E-8) | 16:40 ～ | 分散形態論と日本語の動詞由来複合語 | 長谷川拓也<br>大関　洋平 |
| (E-9) | 17:20 ～ | 否定述語形式と進行相表現形式との相関および近代英語でのそれらの通時変化 | 廉田　浩 |

◦F 会場

| | | | |
|---|---|---|---|
| (F-1) | 10:00 ～ | 統語的複合動詞「V- ぬく」の意味構造と統語 | 日高　俊夫 |
| (F-2) | 10:40 ～ | 日本語の格助詞と副助詞・係助詞との語順の，Nanosyntax による記述 | 林　則序 |
| (F-3) | 11:20 ～ | 再帰的ニューラルネットワーク文法によるヒト文処理のモデリング | 吉田　遼<br>能地　宏<br>大関　洋平 |
| (F-4) | 13:50 ～ | 日本語コーパスの談話構造アノテーションに向けた予備的研究 | 野元　裕樹<br>大久保　弥<br>佐近　優太 |
| (F-5) | 14:30 ～ | ノルウェー語の付加詞形容詞における一致のゆれ：意味に注目したコーパス研究 | 谷川みずき |

ポスター発表

―第 1 日（11 月 21 日（土））12:40 ～ 13:40―

| | | |
|---|---|---|
| (P-1) | On long distance genitive subject licensing in human language | Shao-Ge Wang<br>Pei-Zhi Wu<br>Yun-Qian Yao<br>Hideki Maki |
| (P-2) | ロシア語を母語とする日本語学習者の発音における子音連続と有声性同化 | Nikolai Konovalenko |
| (P-3) | エヴェンキ語における属格主語の分布 | 張　震<br>牧　秀樹 |
| (P-4) | 三重県尾鷲方言の人名アクセントと呼びかけイントネーション | 平田　秀 |

ワークショップ

―第 2 日（11 月 22 日（日））14:00 ～ 16:00―

◦ワークショップ 1

| | | |
|---|---|---|
| (W-1) | 危機方言のプロソディー | 企画者・司会者：窪薗　晴夫 |
| (W-1-1) | 天草市本渡方言における呼びかけのイントネーション | 松浦　年男 |
| (W-1-2) | 喜界島方言における動詞のアクセント単位の拡張と真偽疑問文末のプロソディー | 白田　理人 |
| (W-1-3) | 南琉球宮古語伊良部佐和田方言のアクセント体系の初期報告 | 五十嵐陽介 |

◦ワークショップ 2

| | | |
|---|---|---|
| (W-2) | 理論言語学を科学哲学する：生成文法，形式意味論，認知言語学の未来 | 企画者・司会者：山泉　実 |
| (W-2-1) | 言語の科学的説明：その展望と課題 | 成田　広樹 |
| (W-2-2) | 形式意味論研究における理論構築について | 窪田　悠介 |
| (W-2-3) | 非（自然）科学としての認知言語学 | 田中　太一 |
| (W-2-4) | 容認性判断を用いた言語研究の有用性と公正性 | 太田　陽 |

**日本言語学会 2021 ～ 2023 年度役員選挙の結果について**

2021 ～ 2023 年度役員（会長，編集委員長，会計監査委員，評議員）の選挙を，会則・選挙規則および選挙細則に基づいて，以下の日程で行った。

2020 年 12 月　選挙実施の案内発送
2020 年 12 月 21 日（月）　投票開始
2021 年 1 月 15 日（月）　投票締め切り

開票は下記の選挙管理委員会で行われた。今回は新型コロナウィルス感染拡大防止のため，オンライン開催とした。

日　時：2021 年 1 月 19 日（火）19:30 ～ 21:00
出席者：田窪行則（選挙管理委員長），井上　優，小林正人，早津恵美子，松本　曜（以上，選挙管理委員）
オブザーバー：有田節子（事務局長），金城由美子，早田清冷（事務局委員）

開票結果は以下の通り。

**1.　会長選挙**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 投票総数 | | 265 票 | うち有効投票数 | 257 票 |
| | | | 白　票 | 8 票 |
| 当　選 | 福井直樹 | 50 票 | | |
| 次　点 | 早津恵美子 | 30 票 | | |
| 次々点 | 金水　敏 | 22 票 | | |

**2.　編集委員長選挙**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 投票総数 | | 265 票 | うち有効投票数 | 243 票 |
| | | | 白　票 | 22 票 |
| 当　選 | 呉人　惠 | 23 票 | | |
| 次　点 | 加藤重広 | 15 票 | | |
| 次々点 | 定延利之 | 14 票 | | |

**3.　会計監査委員選挙**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 投票総数 | | 265 票 | うち有効投票数 | 210 票 |
| | | | 白　票 | 55 票 |
| 当　選 | 米田信子 | 13 票 | | |
| 当　選 | 藤代　節 | 10 票 | | |
| 次　点 | 庵　功雄 | 9 票 | | |
| 次々点 | 野田尚史 | 8 票 | | |

（19 票の有田節子氏が辞退し，選挙管理委員会で了承された。その結果，次点が繰り上げ当選となった。）

**4.　評議員選挙**

選挙細則に基づき，当選者のみを五十音順に掲げる。
青木博史，有田節子，五十嵐陽介，石井　透，伊藤たかね，井上　優，上田　功，上山あゆみ，内堀朝子，梅谷博之，江口　正，江畑冬生，大沢ふよう，大津由紀雄，荻野綱男，奥　聡，

尾谷昌則，越智正男，小野尚之，小野　創，風間伸次郎，加藤重広，河内一博，菊澤律子，岸本秀樹，北原久嗣，木部暢子，Catt Adam，桐生和幸，金水　敏，窪薗晴夫，久保智之，窪田悠介，呉人　惠，小泉政利，小林正人，近藤泰弘，斎藤　衛，酒井　弘，佐々木冠，定延利之，下地理則，杉崎鉱司，滝浦真人，田窪行則，竹沢幸一，千田俊太郎，塚本秀樹，中川裕（東京外国語大学），中谷健太郎，長屋尚典，中山俊秀，那須川訓也，西村義樹，新田哲夫，野田尚史，長谷川信子，林　徹，林　範彦，早津恵美子，広瀬友紀，堀江　薫，益岡隆志，町田　健，松浦年男，松本　曜，宮本陽一，山越康裕，由本陽子，吉田和彦（70 名）

なお，福井直樹，米田信子，藤代　節の 3 氏は評議員当選に足る票数を得たが，それぞれ会長あるいは会計監査委員に就任のため，兼任禁止規定により評議員とはならない。これに伴い繰り上げ当選が生じた。また，3 名の辞退者があり，選挙規則により次点者から補充した。同得票数 9 名のうち抽選で 6 名が繰り上げ当選となった。

**◇退　会**
国内通常会員：1名
在外通常会員：8名
国内学生会員：3名
在外学生会員：1名
13名

**◇入　会**
国内通常会員：18名
在外通常会員：2名
国内学生会員：31名
在外学生会員：1名
52名

## 日本言語学会学会賞報告

**第160回大会（2020年春季，オンライン）の大会発表賞（3件）**

**・津村早紀氏（共同発表者：新井学氏，馬塚れい子氏）**

「子どもの言語理解能力の発達と抑制機能の関係性」

本発表は，絵の判定に基づくGo/No Go課題によって計測した抑制機能の指標とガーデンパス文の解釈という言語処理機能の指標に相関があるかを5歳から8歳までの子どもを対象として検証した。その結果，両者の関連がみられ，混乱を誘発する文の理解において，抑制機能の個人差が影響している可能性が示された。刺激として用いられたガーデンパス文の逸脱性に関して意味の観点からの統制が必ずしも十分でないといった課題は残されているものの，実験計画や問題設定については新規性および発展性があり，着実な分析手法が取られている点などにおいて高い評価がなされた。

**・峰見一輝氏（共同発表者：広瀬友紀氏，伊藤たかね氏）**

「日本語wh疑問文における文法性の錯覚と記憶処理―文読解中の視線計測実験―」

本発表は中央埋め込み補文を含む主節wh疑問文をめぐって，文法性の錯覚が作業記憶への探索を駆動するかを視線計測によって検証した結果を報告している。ここで問われている研究課題は，文解析器と文法が独立した異なる認知システムなのか（「独立仮説」：Townsend and Bever 2001），それとも同じ認知システムなのか（「同一仮説」：：Lewis and Phillips 2015）である。本発表では，文法性錯覚に基づく読みの促進が非文においてのみ観察されたと報告され，文解析器が文法性によって異なるふるまいを見せる点で「同一仮説」を支持するとの結論が出された。促進と抑制のロジックがやや分かりにくかったが，文法性の錯覚の実時間処理を正文と非文の比較から検証した点に新規性があり，また，論の立て方が周到で，発表もたいへん落ち着いていて着実だった点に高い評価を与えられる。

**・王丹凝氏**

「南琉球宮古語新城方言における再帰代名詞duuとnaraの使い分け」

本発表は南琉球宮古語新城方言における再帰代名詞の3つの形式，una，duu，naraの使い分けを記述し，特に機能的に類似したduuとnaraに注目し，duuは一般的な再帰代名詞として汎用性がある一方，naraの使用には人称・格の制限があることを報告した。さらにCase Hierarchy（Blake 2001, 2004）との関連を指摘し，本研究の類型論への示唆が論じられた。インフォーマントが1人であることや，発表スライドについて一部音声解説が欠落しているところなどについて改善の余地を指摘されたが，全般的に論が明快で発表もたいへん分かりやすく，

方言調査に基づく記述にとどまらず類型論への貢献が論じられるなど，将来性の観点からも高い評価が得られた。

**2020 年度の論文賞（2 件）**

**・大滝宏一氏（共著者：杉崎鉱司氏，遊佐典昭氏，小泉政利氏）**

Koichi OTAKI, Koji SUGISAKI, Noriaki YUSA, and Masatoshi KOIZUMI, "Two Routes to the Mayan VOS: From the View of Kaqchikel"，『言語研究』156 号，pp. 25–45（2019 年 9 月）

本論文は，Kaqchikel 語の VOS 語順がどのように派生されているかについての 2 つの説を検討し，1 つの説である右側指定部の分析が他の分析よりも優れていることを論じたものである。比較的研究の少なかった言語について，2 つの仮説を統語的議論に基づいて検討しながら，語順の問題を理論的に追求した点は，高く評価できる。特に，Kaqchikel 語の VOS 語順の predicate-fronting 分析に反対する議論は説得力もあり，優れている。この議論が他の VOS 言語の分析との関連でどのような理論的含意を持つのかについての議論がもう少しあってもよいなど，若干不十分な点は認められるものの，議論が明晰である点などを含め，日本言語学会論文賞授賞論文にふさわしい内容を備えていると判断できる。

**・長屋尚典氏**

Naonori NAGAYA, "The Thetic/Categorical Distinction in Tagalog Revisited: A Contrastive Perspective"，『言語研究』156 号，pp. 47–66（2019 年 9 月）

本論文は，タガログ語を日本語と対照して，日本語の「は」とタガログ語の ang が Kuroda（1972）の提起した thetic/categorical の区別を表しているか否かを検討したものである。これまでの説の妥当性に疑問を呈し，新たな根拠に基づいて，個々の言語現象ごとに丁寧に論駁を行っている。特に，thetic/categorial の区別では nominative NPs の分布は説明できないとする議論は説得的である。タガログ語と日本語で感嘆文，存在文などが完全に等価であると見なしてよいかなど，若干の疑問点はあるものの，対照研究の論文としての議論の展開が明快である点を含め，日本言語学会論文賞授賞論文にふさわしい内容を備えていると判断できる。

**第 161 回大会（2020 年秋季，オンライン）の大会発表賞（2 件）**

**・山岡翔氏**

「ベトナム語ハノイ方言の二重母音の音韻表記について：音響的観点からの検討」

本発表は，ベトナム語ハノイ方言における二重母音の音韻表記についての見解が先行研究で統一されていないという問題を取り上げ，その問題が聴覚印象によって音韻表記が決定されていることに起因すると指摘した。その上で音響的観点，特にフォルマントの特性から二重母音を分析し，実証的に音韻表記を同定した。本研究は，そのスコープがやや狭いきらいはあるものの，これまでなされてこなかったベトナム語音韻論の音響音声学的分析が着実になされているという点で新規性があり，またその明確な実証にも高い評価が得られた。今後の展開にも大いに期待できる発表であり，大会発表賞を授賞するに値すると認められた。

**・吉田樹生氏**

「シンハラ語における数標示の形態論的有標性と頻度」

本発表は，シンハラ語において無生名詞の一部の単数形が複数形よりも有標な標示をうけるという通言語的に珍しい事実に注目し，この形態論的有標性と頻度に相関がある可能性を検証した。コーパス調査の結果，無生名詞では形態論的有標性と頻度が対応している傾向があることを明らかにした。選考部会では「無標」をめぐる理論的議論がやや不足したままデータを統

計処理している点に問題が見られるという指摘もあったが，統計的手法によって形態素の特性を実証的に明らかにしようとした本研究の方向性と成果は独創性と着実さにおいて高い評価が得られた。将来性という点でも，氏は大会発表賞の授賞者としてふさわしいと判断された。

# 2020 年度役員

【会長】
田窪行則

【顧問】
上野善道，影山太郎，梶茂樹，国広哲弥，窪薗晴夫，柴谷方良，早田輝洋，松本克己

【常任委員】
江口正，小野尚之，菊澤律子，桐生和幸，久保智之，千田俊太郎，中谷健太郎，野田尚史，福井直樹，米田信子，渡辺己

【事務局】
有田節子（事務局長），金城由美子，早田清冷

【評議員（68 名）】
［北海道］奥　聡，時崎久夫，野村益寛［東北］小野尚之，小泉政利，後藤斉，那須川訓也［関東］庵功雄，石井透，伊藤たかね，井上優，遠藤喜雄，大津由紀雄，大堀壽夫，生越直樹，風間伸次郎，河内一博，菊地康人，北原久嗣，工藤真由美，窪薗晴夫，小林正人，滝浦真人，田中伸一，長屋尚典，西村義樹，野田尚史，長谷川信子，林　徹，早津恵美子，福井直樹，福井玲，松本曜，渡辺己［中部］江畑冬生，呉人惠，斎藤衛，佐久間淳一，澤田治美，杉崎鉱司，玉岡賀津雄，新田哲夫，堀江薫，町田健［近畿］有田節子，梶茂樹，金水敏，佐々木冠，定延利之，沈　力，千田俊太郎，林範彦，藤代節，益岡隆志，宮本陽一，由本陽子，吉田和彦，米田信子［中国・四国］桐生和幸，塚本秀樹，辻星児，宮崎和人，和田学［九州・沖縄］青木博史，江口正，狩俣繁久，久保智之，下地理則

【編集委員会】
井上優（委員長），青柳宏，井川壽子，岸本秀樹，小林正人，佐々木冠，定延利之，鍋島弘治朗，藤井洋子，由本陽子，米山聖子

［特別編集委員］
（未定）

【大会運営委員会】
伊藤さとみ（委員長），江畑冬生，大島デイヴィッド義和，金廷珉，小磯花絵，品川大輔，柴崎礼士郎，下地理則，成田広樹，林範彦，星英仁，宮地朝子

【広報委員会】
小泉政利（委員長），石田尊（英語ページ webmaster），那須川訓也，広瀬友紀，藤本真理子，堀博文（危機言語担当），松浦年男（日本語ページ webmaster）

【夏期講座委員会】
渡辺己（委員長），内堀朝子，木山幸子，田中真一，千田俊太郎，本多啓

【学会賞選考委員会】
久保智之（委員長），庵功雄，江口正，桐生和幸，中谷健太郎，福井直樹，松本曜

【倫理委員会】
田窪行則（委員長），伊藤たかね（副委員長），江畑冬生，柏野和佳子，呉人惠，藤代節，松本曜，八亀裕美，矢野雅貴

【国際情報発信強化小委員会】
米田信子（委員長），佐々木冠，田中英理，長屋尚典，林　徹，広瀬友紀，福井直樹，渡辺己

【会計監査委員】
上山あゆみ，加藤重広